

第3回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時：平成26年3月19日（水） 午後2時27分

場所：男鹿市役所 3階 第一会議室

出席委員 (16人)

2号委員 高橋 邦 武

4号委員 糸 井 博 佐藤 秀 治 佐々木 崇 成

鎌 田 栄 光 三 浦 泰 茂

5号委員 大 高 誠 悦 **石 垣 禮之助** 太 田 文 博

佐 藤 清 菅 原 新 悦 仲 村 盛 吉

白 幡 克 見

6号委員 日 野 智

7号委員 伊 藤 正 孝 三 浦 秋 広

代理出席 (4人) (委員名) (代理者)

1号委員 高 橋 浩 也 五十嵐 誠

4号委員 山 口 徹 也 平 川 誠一郎

4号委員 山 本 次 夫 三 浦 由紀子

5号委員 高 桑 繁 吉 田 勇之助

欠席委員 (5人)

3号委員 渡 辺 聡

4号委員 畠 山 千萬城 佐々木 明

5号委員 佐々木 一義 松 野 美智子

出席事務局職員

① 総務企画部長 山 本 春 司

② 総務企画課長 原 田 良 作

③ 総務企画課副主幹 吉 田 悟

④ パシフィックコンサルタンツ 佐 久 間 良

## 第3回 男鹿市地域公共交通活性化協議会総会

日時：平成26年3月19日 午後2時30分

場所：男鹿市役所 3階 第一会議室

### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 委嘱状交付

#### 3. 議 事

(1) 議事録署名委員の選任について

(2) 男鹿市公共交通総合連携計画（案）について

(3) 男鹿市地域協働推進事業計画（案）について

(4) 平成26年度男鹿市地域公共交通活性化協議会予算（案）について

(5) 平成26年度のスケジュール（案）について

#### 4. 報告事項

(1) 平成26年度 男鹿市単独運行バスの契約内容について

#### 5. 閉 会

午後 2 時 27 分開会

○事務局

お時間前ではございますが、予定の皆様もお揃いですので、ただいまから第 3 回男鹿市地域公共交通活性化協議会総会を開催したいと思います。

まず資料のご確認をお願いいたします。

お手元に配布してございます、次第、1 枚ものであります。それから出席者名簿。それから資料 1~5。落丁などございましたらお申し出ください。

本日の総会はお手元の総会次第によりまして進めさせていただきたいと思います。まず次第 2 の委嘱状の交付でございますが、ここで今回新たに議員になられました皆さんをご紹介させていただきたいと思います。まず椿地区六部落会長の菅原さまでございます。

○椿地区六部落会長会会長 菅原委員

菅原です。よろしくお願いいたします。

○事務局

次に戸賀地区区会長白幡さまでございます。

○戸賀地区区長会会長 白幡委員

白幡です。よろしくお願いいたします。

○事務局

次に次第の 3 の議事に移りたいと思います。議事進行につきましては会議規定におきまして会長が務めることになっておりますので、日野会長より議事進行をよろしくお願いいたします。

○日野会長

本日はご多忙中にもかかわらず皆様にはお集まりいただきありがとうございます。

本日はこの次第にもございますように、男鹿市公共交通総合連携計画案について、もう一つは男鹿市協働推進事業計画案ということについてご協議いただくこととしております。

皆様のご活発なご発言、またはご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは最初に次第に従いまして、議事の 1 番目ということで、議事録署名委員の選任についてということで皆様にお諮りいたします。

規約の第 20 条第 3 項におきまして、2 名の議事録署名委員を選任することとなっております。選任方法についてですが、いかがいたしましょうか。

事務局の一任ということでしたのでご提案があればよろしくお願いいたします。

○事務局

では事務局からご提案を申し上げます。秋田観光バス株式会社の鎌田委員と、男鹿市建設課長の三浦委員をご推薦したいと思いますが、よろしくお願いいたします。

○日野会長

事務局から両委員を推薦する声があったので、ここでお諮りいたします。お二人を議事録署名委員とすることをお願いすることにご異議はございませんでしょうか。

～異議なしの声あり～

それでは異議がないようですので議事録署名委員を鎌田委員と三浦委員といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次に議事の2番ということで、男鹿市公共交通総合連携計画案についてということで、こちらを事務局から説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

それでは男鹿市公共交通総合連携計画案につきまして、ご説明いたします。こちらの説明は、パシフィックコンサルタンツから説明をいたします。

○事務局 パシフィックコンサルタンツ 佐久間

こんにちは。パシフィックコンサルタンツの佐久間でございます。座って説明をさせていただきます。

お手元に配布してあります資料の、資料1と右肩にふってありますものの、改定案と書いてある冊子でございます。

基本的に中身につきましては、前回ご審議いただきました、たたき案というところから、大きな変更はございません。ただ前回の協議会の後、運輸支局さん等とご相談をさせていただきながら、中身の確認をさせていただきましたところ、少し補足すべき点がいくつかあるのではないかとといったご指導を頂きましたので、それを踏まえまして内容を少し詰めさせていただきました。

めくっていただきまして、目次があるかと思えますけれども、こちらのほうでいきますと、1つ目に計画策定の目的、2つ目に男鹿市の概況というところがございます。こちらのところ、前段の補足というところで今回加えたところがございます。

それから、3つ目、4つ目につきましては、これまでご報告させていただいた内容のとおりでございます。

5つ目のバス運行に関する地域住民意見というところも、今回加えさせていただいた内容です。地域の方々の意見について、しっかり確認しているかといったようなご指導を、運輸支局さんのほうからいただきまして、改めて整理したものでございます。

6番目、7番目の内容につきましては、これまで審議いただいた内容と大きな変更点はございません。

それでは付け加えましたところだけを簡単ではございますが、説明させていただきます。

1 ページ目は計画策定の目的というところがございますが、これまでの取り組みの経緯を最初に能書きを書かせていただいております。

ご案内のとおり、平成14年に、道路運送法改正がございまして、そこからバス路線の再編といったような問題がおきまして、平成20年に、一番最初のこの地域公共交通活性化協議会をたちあげて、前回の連携計画を策定したところがございます。

男鹿市としましては、これまでの民間主体の運営路線から、公共が関与した幹線路線とフィーダー路線といったような形で役割分担をしながら、路線の再編を行ってきたところは、皆様ご承知のとおりかと思います。

ではありますけれども、その後、利用者の方はなかなか減少の方を止めることができませんで、年間12万人ほどまで留まっているといったような状態でございます。

市の財政からは、民間路線に約5,300万円、市単独運行路線に約4,000万円支出をしながら運営をしているといったような状態でございます。

その他スクールバスを現在男鹿市の方では運営しておりますけれども、今後もスクールバスを

利用する生徒が減少するという方向にあると、それから市のスクールバスに使っている車を更新、買い替えなければいけないという問題がある中で、もう少し効率的に運行できないかといったような課題が表面化してきたというところでございます。

これらを含めまして、もう少し効率的に、男鹿市全体のバスを運行できないか、もう少し丁寧なサービスを与えることができないかということで、今回の連携計画の改訂というところに至ったというふうにご理解をいただければと思います。

2 ページ目にまいりまして、男鹿市の現況。この辺は皆さんすでにご案内のことかと思えますけれども、おさらいでございします。

2 ページ目の下、人口の推移というところでは、平成 2 年からの国勢調査の結果でございしますけれども、平成 2 年に比べて、約 25%人口のほうが減っておりまして、平成 22 年では 32,000 人ちょいというところまで人口が減っているという状況でございします。

3 ページには、その中で高齢者の割合というところで。もう少し新しいデータですけれども。平成 25 年の 4 月 1 日現在で、男鹿市全体では 65 歳以上の方、約 31,000 人の中の 11,000 人強ということで、36%という高齢化率になってございします。特徴的なのは、その中で、女性の高齢化率が高いと。下の表の 65 歳以上の男女というところを見ていただきますと、女性の方が高齢化率が高くなっているというところが特徴的なところでございします。

4 ページ目に移らせていただきまして。前回の協議会で、これからは高齢者、特に運転免許を持っていない方にフォーカスしていくべきではないかというご意見をいただきましたところでありましたので。男鹿市の中で、いったい運転免許を持たない方がどのくらいいるんだろうかというところのデータを整理したものでございします。

男鹿市だけの運転免許の保有に関するデータは入手することができませんでしたので、秋田県全体の運転免許保有率といったようなものから推定をした数値になってございします。男鹿市全体では、運転免許証を持たない人口というのは、31,000 人の人口の中の 38%にあたる 12,000 人弱、11,933 人になってございします。このうち、高齢者については、その 60%であります 7,300 人ということになっています。さきほど女性の高齢化率が高いというお話をさせていただきましたけれども、女性が約 6,000 人弱ということで、これだけの方が運転免許を持っていない、自由に移動できない方だと。そういうなかなか移動に不自由をしていらっしゃる方の母数がありますよというデータでございします。

さらにそれを地区別で見ますと、高齢化率が非常に高くなっているのが、南磯、戸賀、北浦、男鹿中というところでございします。

もともと南磯とかは、人口も多くなっていますので、高齢者そのものの人口も高いですけども、高齢化率が高く、それなりの高齢者で運転免許を持っていない方がいるといったところが、戸賀、北浦、男鹿中といった、これまでの計画でもデマンドバスをいれようとしている地区になっているということがわかっております。

めくっていただきまして、6 ページはそのバック資料になりますので、7 ページに移ります。

観光客の推移でございしますけれども、観光客についても大切にしていきたいというご意見をいただいておりますので、ご案内かとは思いますが、ピークは平成 9 年の 295 万人くらいが最近でのピークでございします。そこから少し上下を繰り返しながら、男鹿水族館のリニューアル

の時に持ち直しをしたりしましたがけれども、現在では 200 万人ちょっと、だいたい年間 200 万人から 230 万人くらいの観光客の数値を保っている、やっと保っているといった状況でございます。

それぞれの有名な観光施設毎の年間の数値というのは 7 ページの下に書かせていただいているものでして、一番多いのは男鹿水族館 GAO の年間約 25 万人といったようなところでございます。

8 ページにまいりまして、男鹿市の目指す都市構造というところで、バス路線を利用の使い勝手に主に着目してこれまで考えてきましたがけれども、男鹿市の都市構造の目指すべき方向も、当然押さえておくべきではないかというご指摘もいただきました。男鹿市が、旧若美町と合併した時に、男鹿市の新市建設計画を立てたときの目指すべき方向でまとめられていたものでございます。男鹿市の中の中心部に一極集中ですべての機能を集めていくといったような考え方ではなくて、男鹿市のそれぞれの地域が持っている特徴、産業でありますとか、生活の仕方等、あるいは観光資源の分布等を勘案して、この下の図にありますとおり、生活拠点のゾーンでありますとか、自然環境保全のゾーン、それぞれのゾーンをリンクして、地域が連携をしながら男鹿市全体で均衡ある発展をしていこうという都市構造を目指している、といったようなことが市の方針でございます。公共交通につきましても、どこか一つの拠点に、すべてを集めてくるというわけではなくて、地域が連携できるようなネットワークを考えていくのが望ましいということで、おさらいをしたところでございます。

9 ページ以降は、これまでご報告をさせていただいてきたものがずっと続いておりまして、26 ページに飛んでいただきたいと思います。

26 ページ、27 ページに、バス運行に関する地域の住民のご意見を整理しております。

平成 21 年の 3 月に、第 1 次の連携計画を策定した後に、バス運行に関する地域との意見交換会を男鹿市としては継続的に開催をしてきたわけでございます。その数は、全部で 50 回、参加人数は延べにいたしますと 942 人にのぼっております。またその他に、市役所に電話等でいろんなご意見をお寄せになっていただく方々が年間に 10 件～20 件くらいございますので、それ相当の数のご意見をこれまで聞いてきたところでございます。これらの意見について、主な意見を集約させていただいたものが 26 ページの下に書いてあるものです。

1 つ目はバス交通の維持・確保に関する意見ということで、市民の方から寄せられておりますのは、バス路線は不可欠だと、税金を投入しても守る必要があるということ。

それから維持するための経費については、利用者負担だけではなくて、いろんな施設からの支援も含めて地域全体でも考えていった方がよいのではないかという意見。

それから便数が少なくても必ず運行するダイヤでありますとか、路線をしっかりと守るべきだ、といったような意見もいただいております。

バスのサービス改善・利用促進に関する意見としては、1 つ目は、交通手段として往復で利用可能な頻度と運行時間帯を確保してもらいたいということがございます。

2 つ目はバスを利用するためのいろいろな抵抗について配慮してもらいたい。乗り継ぎ時間のことでありますとか、バスの段差でありますとか、あるいは冬の間に雪による遅延とか、事故による遅延などによって、乗ろうとしていたバスが行ってしまうといったようなこともたくさんあるので、そういったことも配慮してほしいという意見などもいただいております。

路線バスが利用できる地区、利用できない地区があるので、市の中全体での公平性を保つよう

な配慮をしてほしいという意見もいただいております。

それから今ある路線につきまして、利用が集中する路線もございます。そういった路線については、乗れるバスを、乗りやすいバス、段差のないバスに変えたりですね、あるいは広めのバスに変えたりといったような、利用が比較的されているようなものでは、サービスの質を向上するようなことも考えていったらどうか、といったようなご意見もいただいております。その他、バスがサービス業であるということを認識してより良いサービスを心掛けてほしいといったようなこと。あるいは観光客に対してもバス利用の PR をどんどん積極的にやっていくというご意見もいただいております。

最後に、今検討しておりますデマンド交通についてのご意見ですけれども。

デマンド交通といっても、今計画の中に入れていたものではなくて、電話をして来るだけのもの、今運行しているものについてのご意見になります。それに対しては、なるべく需要対応型の交通は避けてもらいたいと、ただ利用者が少ない中では、やむを得ないなという理解も示していただいております。できれば避けてほしいという理由については、高齢者になると携帯電話を持たない人が多い。町に出てしまっただけで公衆電話もなくなっているような状況で、帰りの便の予約ができないということもあるとか、予約の締め切り時間が 1 時間前で早いので行動に制約を受ける、あるいは、簡単に利用しにくいといったようなことがあるので、そういったことの不安から避けてもらいたいと言ってらっしゃる方がたくさんいらっしゃいました。

それから、需要対応型の交通について、なかなか利用の仕方でありまして、どういう風に、どことどこを結んでいるのかといったようなことがよくわからないというので、PR でありますとか、利用の練習会みたいなものやってくれるといいのではないかとといったようなことをご意見としていただいております。

これらのご意見につきましては、アンケートでもいただいておりますし、事前にこちらとしては把握をして、資料としては組み込みをしながら計画を策定したものでありますので、改めて計画に反映するといったところまで大きく修正が必要だということを判断には至らなかったということで意見の整理をするにとどめさせていただきました。

これらのご意見も踏まえた中で今回の計画を立てたということで、次ページ以降にあります計画の内容については、大きな変更を今回は加えてございませんが 1 点だけ、計画の中身で変えたところがございます。39 ページをご覧ください。39 ページの真ん中から下のところに、連携計画の目標というところなんです。これまで目標については、満足度を上げるとか、意識を向上させるとか、そういった文言にとどまっておりましたけれども、後程ご説明させていただきます、地域協働推進事業という、国交省さんから補助をいただきながら、皆で利用促進していこうという取り組みの計画を作らせていただいておりますけれども、それを作る過程におきまして、しっかりとある程度の数字の目標を持つべきだというご指導もいただいたところでありましたので、こちらで目標として決めました数字を、こちらの連携計画の方にも反映をさせていただきました。

39 ページの下の方の目標というところですが、①といたしましては、公共交通に対する利用者の満足度を、平成 25 年度の実績値が 70% でありましたので、5 年間では 10 ポイント向上させて 80% まで持っていこうではないか、というのが 1 点でございます。

それから 2 番目はバス利用意識を、平成 19 年度の実績、ほとんど利用しない 63% に比較して、



10 ポイント改善しようではないか。これはどういう意味かといいますと、なかなか今利用している方々にこれ以上もっと利用してくださいと言ってもすでに使っているの、これを増やすのは難しい。アンケートしたところ、市民の方々の 63%の方がバスは使わないよと言っているわけです。このバスはほとんど使わないよと言っている方が少しでも使うようになってくれば、バスの利用は少しでも利用が増える、採算も良くなると考えられますので。こういうバスをほとんど利用しないという割合を少しでも低くしていこうということで、バス利用に関する意識を改善していくということを目指して掲げております。

それから、小中学生の公共交通に対する意識の向上というのは、今、現況のデータがございませんので、数値の目標は入れてございません。

4 つ目のバス利用者数。これは、平成 24 年度の実績で男鹿市全体では民間バス路線も含めて 184,000 人弱という数字がございます。これを 5 年間で約 5%。5%といっても今現在減少傾向が続いている中で大変な数字ではございますけれども、目標としては 5%増加ということで 193,000 人ということで設定をさせていただきました。

これについて、何が根拠で 5%といったところはないわけでございますけれども、先ほどの少しでも今利用してらっしゃらない方に利用していただくといったようなこと合わせて増加させていきたいという考えでございます。

以上が大きく前回から変更、追加をさせていただいた点でございます。その他の中身については変更がございませんので、説明の方は省略させていただきますけれども、ご審議のほどをよろしくお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

○日野会長

ありがとうございました。ただいまご説明いただきましたけれども、この内容に関しまして、質問やご意見がございましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

○船越振興会会長 太田委員

私は船越ですけれども、ちょうど隣に若美の方がおられますけれども。32 ページの電車との連絡についての意見の中に、やはり踏切待ちの間に行ってしまうとか書いているので。今説明ありました、39 ページの、目標の 63%の方がほとんど利用しなかったと。ここを読んでも、やはりバスに合わない時間帯になっているからこういうことになっているんじゃないかなと思いますけれども。その辺りどうでしょうかね。

○事務局

ご質問にお答えいたします。こちら調査した時点は平成 25 年度の時刻表ということで、結果このように、バスと JR があわないという状況がございました。

まず 1 点目は平成 26 年 4 月からのダイヤ。こちらのほうは完全に合うように JR の時間に合わせた形でバスの時刻の調整をしています。前回幹事会の方でもお問い合わせいただきましたけれども、秋田中央交通さんのほうでは待機時間等なるべく合わせるように工夫をして間に合うように運行をいただいているというお話もいただいております。とりあえず 4 月からのダイヤとしては完全に連絡が可能ないようにして、調整をいただくと、よろしくお願いします。

○日野会長

その点ではあれですかね。46 ページの②っていうところは、新しい計画の中身に対応している。鉄道との連携を強化していくということで、これからやっていきますよというような計画の中身だと理解してよろしいでしょうか。

○事務局

はい。そうです。

○日野会長

わかりました。

他に何かご質問ご意見などありましたらどうぞ遠慮なく。

○日野会長

ちょっと私からよろしいですか。非常に細かいというか、なかなか難しい所かなと思うんですけども、目標で、具体的な数値目標というのは、それはそれでよろしいことかと思うんですけども。ちなみにこの利用者数を 5 年で 5%あげるのと、利用意識をほとんど利用しないというのは 10 ポイント改善するというのは、10 ポイント改善したら 5%くらい増えるものなんですか。

○事務局

単純には増えないと思っております。

○日野会長

そうなのか、たとえば実際使うかどうかと意識の問題はまた別なんでしょうけど。仮にそのくらい使ったときに、10 ポイント改善したらその関連する数値の、数値目標としての関係というのはどうなのかな。私も全体の計画しっかり見てみないとわからないんですけども、5%以上うまくいけば増えるような気もするんです。それなのか、ただ 10%の改善、10 ポイント改善したとして、5 ポイント増やすと、実態としてはもっと 10 ポイント以上改善しないとならないよという話なのか。そこらへんは整合性とするのはなかなか難しいところかなと思うんですけども。できればそこらへんがうまく整合性がとれたほうが、目標としては妥当性があるかなという気はする。どうですかね。難しいですか。

○事務局

手元に計算結果を持ち合わせておりませんが、なかなかそれ 10 ポイント改善しても、それがじゃあどれくらいの割合で増えるのかといったようなことは具体的に設定しにくいので、それを仮に満額で乗ってくれたとしても、年間で 5%の 1 万人近い数字の方が乗るようになるのは、ちょっと難しいかなというふうなことは考えておりました。ただ、おっしゃるとおり、ここが整合すれば本当にきれいな目標値にはなるので、確認して、不足分はどう補っていくとかっていうようなことを補足できるような資料は用意しておきたいというふうに考えております。

○日野会長

その辺よろしくをお願いします。

○事務局

はい。

○日野会長

他に何かご質問またはご意見などありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

○秋田県交通政策課 高橋委員

43 ページですけれども、フィーダー輸送区間というところで。

中段の辺りにスクールバスと路線バスの統合ということでございますけれども、具体的に後であのスケジュールのほうにもあるようですけれども。スクール路線化の話し合いをしていくということで、地元住民ですとか、関係機関ですとか、協議協定ということでございますけれども。26 年度においてどのように進められていかれるのかというのを 1 つ教えていただきたい。

それともう 1 点。あの、スクールバスの五里合線のほうで、市民の利用できる路線バス化ということで。これはまあ当面現状維持で、今後まず検討していくということですので。これとその上の男鹿中線から 3 つのスクールバスとの具体的な路線バス化についての、同じ方向で考えるのか、あるいは、スクールバスを優先するのか、そういった方向性について教えてください。

○事務局

お答えいたします。質問 2 点あったと思いますけれども。まず 1 点目のスクールバス路線をどのように進めるかということでございますが。これは、まあ、年度が変わりますとすぐに教育委員会を通じて、学校、それから PTA、それらの代表の方々からお集まりをいただきまして、事情のご説明をさせていただく、という段取りにしたいというふうに考えております。

スクールバスとの統合というと、やはりあの本市では、学校統合の問題というのが一緒にございます。ただ、その、小学生達に路線バスをお使いいただいて、そしてその地元に残す財産として維持していきたいということで、話し合いをして納得していただければなというふうにして考えておるところでございます。

2 点目の五里合線の検討の件でございますが。こちらのスクールバス五里合線というふうに、43 ページの一番下のところでございますが。これ、まったくあの、今運行している路線バスとはまったく違ったところに行くバスでございます。平成 21 年度第 1 次連携計画の際に地元説明会で回りましたところ、旧若美町と、五里合地区、こちらを結ぶ路線はあまり必要ではないという地元の方達の強い意見がございましたので、路線化を見合わせたという経緯がございます。しかしながら、五里合地区の子供達が旧若美町の小中学校へ通うというところでどうしてもここ、スクールバスということで運行していかなければならないという現状がございますので、こちらは他の地区とはちょっと事情が異なるということでございますので、ご理解のほうよろしくお願いいたします。

○秋田県交通政策課 高橋委員

県の方でも今、全市町村集めまして、さまざまな取り組みが各市町村で違っておりますけれども。やはりそのスクールバスの活用ということで、そういったことは今後まず検討しなければならないということでございますので。26 年度におきまして、やはり同じ事業を行っていく予定でございまして。今後この取り組みというのは、他の市町村の先行事例みたいになると思いますから、今後進め方においてさまざまな状況等につきまして県のほうにも情報提供していただいて、意見交換の方お願いしたいというふうに考えております。

○日野会長

他にお意見ご質問等ありましたらよろしくお願いします。

○秋田県地域振興局建設部 佐藤委員

すみませんあの 50 ページのところなんですけれども。中段の下のほうに乗継施設の整備という

ところがあるんですけども、その予定として、26 年度が準備で 27 年度が実施となっているんですけども。この準備というのは整備をするということが準備なのか、整備をするための準備なのかちょっとわからなくてですね。この準備という期間はなにをやるんでしょう。

○事務局

はい。お答えをいたします。こちらのとおりの準備というふうにして位置づけをしてございます。当面その乗継拠点としては、北浦市民センターを想定しまして、そこを待合所として整備するというところでございますが。この準備の中にはその待合所がはたしてそこで良いのかどうか。それとあのバスが通るための回転のスペースがはたしてあるのかどうか。これらをこの期間の中で検討して、市民の皆さんにもご相談しながら進めたいという意味で、ここを準備というふうな位置づけでさせていただいております。調整が整い次第実施したいというふうにして考えてございます。平成 27 年度からはそこを乗継拠点として活用すぐにできるように進めていきたいというふうに考えてございます。

○日野会長

他にになにかご質問ご意見などありましたらよろしくお願いします。

○日野会長

私からもう 1 点よろしいですか。地域住民の方の意見ということで、精査したということでまとめがあったと思うんですけど。さっきご説明いただいたように、この意見も、その課題とか、接続がどうだとか、その中身とですね、その関係していますことで、差し込んでいただいたと思うんですけども。こういうことも含めてですね、この、冊子にするときには書き加えたほうがいいかなと。なんとなくここだけポンとあると、こういうのがありましたということで、羅列しているだけで、なんか他の中身の内容とあんまり対応してないんじゃないかなという感じに、これだけを見るとそういう印象を受けてしまうので。ただそういう、いろいろ評価を受けたりとか、課題の抽出とかもしていますけど、それと実際の地域住民の方の意見がしっかりマッチングしてますよというね、そういう部分の説明があったほうがより住民の方の意見いただいたことが活きるかなという気がするので。できればその辺をちょっと検討していただければと思うんですけども。

○事務局

すみません、27 ページに一覧表がありまして、28 ページに課題を出したというところの一番冒頭のところに、今回のバスの利用の実態、それから利用者の意識、それから地域住民との意見交換結果を踏まえて、バスの交通課題を整理しましたということで。つなぎはほんの一言ですが一応入れてはございました。ただあの今おっしゃられたことを踏まえまして、計画のところのページ等のところにも少しその辺のニュアンスが伝わるような内容を加えられるかどうかについては事務局のほうで相談をさせていただきたいと思います。

○日野会長

よろしくお願いします。

○日野会長

他にご質問ご意見などありましたらよろしくお願いします。

○秋田県地域振興局総務企画部 三浦委員

さきほど会長さんがおっしゃったことが、まさしくそのとおりだと思ひまして、アンケートをやっているいろいろな方々の意見を聞いてこういう課題がありますよという話で、その先がアンケートに答えた方がいるでしょうし、方針としてこういう方針でやるよという観念的なものはあまり重要でなくて、26年度、27年度、5か年でも、中でこういう位置づけしておりますとかつていうところをですね、多分わかりやすくした方がよろしいと思ひまして。

あと、必ず、要望があったからやれる、やれないということじゃなくて。あと当然なんですけれども、ここはこういう事情で実施ができないとかですね、これはできるとか考えていくとか、そういうものを具体的な事業と、アンケート課題の中につながりがあるような形が、よろしいかなと思ひます。あと、今計画最終段階ですので、なかなかできないかもしれないですけれども。運用のところでそこらへん配慮した形でお願いいただければよろしいかなと思ひます。

○事務局

ありがとうございます。

○日野会長

他に何かご質問ご意見などありましたらよろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。それではですね、あの、いろいろちょっとご検討いただくことはございますけれども、おおむねその今回案として作成していただきました総合連携計画案につきましては、おおむね変わらないものと、そこについて検討いただいても大きな部分については変わらないと思ひますので、まず提示していただいた案につきまして、案のとおり、連携計画を決定してよろしいかをお諮りいたしたいと思ひます。ご異議はございませんでしょうか。

～異議なしの声あり～

はい。それではご意見がないようですので、男鹿市公共交通総合連携計画案につきましては、本案のとおり決定ということにいたします。

ただまだちょっと検討お願ひした部分もありますので、その点についてはよろしくお願ひいたします。

それでは次に議事の3番ということで、男鹿市の男鹿市地域協働推進事業計画案ということで、こちら事務局からご説明をよろしくお願ひいたします。

○事務局

それでは、男鹿市地域協働推進事業計画案につきまして、ご説明いたします。パシフィックコンサルタンツから説明をいたします。

○事務局

はい。では引き続き説明をさせていただきます。右肩に資料の2と書いてある資料でございます。まずはこの男鹿市地域協働推進事業計画案というふうになってございますけれども、推進事業、そのものがなんであるかというところでございますが。この事業につきましては、さきほどから申しておりますように、バスを今使っていただけてない方を中心に、バスをなるべく使っていただけるように。それから今使っていただいている方も、さらに使っていただけるように。バスの利用をますますこう増やしてくといったようなことについて、小さい取り組みから大きい取り組みもありますけれども、なるべく利用を促進するという観点で、事業を展開していくといっ

たようなことを、国交省さんの補助をいただきながら展開していくといったようなものでございます。この資料の 1 ページ目にはその事業を実施しようとする地域というところで、これについては男鹿市全域ということで載せてございます。この男鹿市全域の公共交通の概況、問題点につきましては、先ほどご説明をさせていただきました内容と重複しますので、割愛させていただきますけれども、これまでの現状を踏まえて、今後連携計画に書いてございます、幹線路線、それからフィーダー路線、さらに加えてデマンド輸送地区といったものを、これから男鹿市は取り組みながら市民生活をささえる公共交通を構築することを目指していますということが書いてございます。めくっていただきまして 53 ページには、バスの維持、利用の促進については、バス会社さんだけではなく、あるいは行政だけではなく、市民のほうも協力しながら一体となって考えていかなければいけないということが、必要性として書いてあるところでございます。

そういった中で、なるべく市民の方々が利用しやすい環境作りでありますとか、利用についての情報でありますとか、知識、知恵を与えていくような、モビリティ・マネジメントといったような、自分の交通行動がどういうことであるか、どういうことに影響が及ぶのかといったようなことを勉強しながら、交通のあり方について考えていく、あるいは、より望ましい方法というところを押しつがましいですけれども、バスを使っていけるような、交通行動を考えていただくといったような取り組みを進めていきたいといったようなことが書いてございます。

その下の 4 番目のところには、さきほどご説明いたしました、バス利用者数、あるいはバス利用者の満足度、それからバス利用の意識の目標値を書いているところでございます。

めくっていただきまして 54 ページからは、その細かい事業を、どういったことを取り組むかといったようなことを書いてございまして。この項目につきましては、運輸支局さんと調整をさせていただく中で、なかなか補助をいただく事業として、認めていただけるものと、認めていただけないものがございまして。認めていただけるもののみ記してございますので、これで全部というわけではございません。フルのメニューにつきましては、さきほどの連携計画の中に書いてあるところでございますけれども、その中で補助をいただきながら実施する事業ということでご理解をいただければと思います。

まず地域公共交通に関する情報提供というところで、平成 26 年度については、バスに関する情報を知っていただく。利用方法でありますとか、時刻表等について、チラシを作成いたしまして。全戸約 13,000 世帯でございますけれども。これに配布をするという取り組みをしたいと考えてございます。それから 27 年は、同じ情報提供でありまして、26 年度に、デマンドバスのやり方について検討して実証運行等に入っていくわけでございますので、また、今の状況とは利用の仕方、あるいはネットワークが変わってまいりますので、そういう変わっていく情報と、それから生活の中でどういうふうに使えるかといったような、総合マップ的なものを作って、それをまたさらに全戸配布していこうという取り組みを考えてございます。それを 28 年度目以降は、変わっていくものを情報更新しながら、毎年毎年、情報を各戸に届けることで、情報の定着と言いますか、知識の定着を図るために、継続的に情報提供をやっていこうと考えたものでございます。利用しやすい環境づくりについては、現在のところ空白で事業としては盛り込んでございません。

3 つ目にモビリティ・マネジメントによる利用促進というところでございますけれども。横文字で、対象団体を中心とした簡易 T F P と書いてございますが、T F P というのはトラベル・フ

フィードバック・プログラムといいまして。自分の交通行動をフィードバック、こういう行動をしています、それに対してこういう行動を変えらるともっと環境にいいですよとか、バスに、こんなところであなたの生活の中で使えますよといったような、情報をフィードバックしていくような取り組みをしていくというのを、横文字でトラベル・フィードバック・プログラムというふうに言っていますけれども。それを簡易的なものではありませんが、男鹿市としては継続的に実施していきたいということを考えてございます。バス、あるいはデマンドバスにつきまして、体験乗車会といったようなものを実施して利用の仕方でありまして、便利さについて体験していただく。そういったものをしていくと同時に、どうでしたかとか、自分の生活の中で使っていますかといったようなことをインタビュー形式で対話していきながら、さらに、理解ですとか知識を深めていただくといったようなこと。あるいは、秋田県さんの事業等にもエントリーをさせていただきまして、公共交通に関する出前講座といったようなものをしていきたいというふうに考えてございます。これらをやりながら、自分の行動が変わってきたかどうか、あるいは、変える要素があるかといったようなことを、アンケートしながら確認していくといったようなものを、毎年毎年いろんな地区を変えながら、あるいは対象を変えながら、ときには子供達を対象に、ときにはお年寄り達を対象に、やっていきたいというふうに考えてございます。

55 ページにはそれらの事業についてどのくらいのお金を充当するかといったようなところですので。この辺に関してはお金の話になりますが。約 5 万円でありますとか、25 万でありますとかそれぞれの事業によって、予定しているお金は違いますけれども、おおむね、半額について国から補助をいただくということで考えてございます。非常にざっくりですけど、協働推進事業についての説明は以上とさせていただきます。ありがとうございます。

○日野会長

ありがとうございます。ただいまご説明いただきました内容につきまして、ご質問、ご意見などございましたらよろしくお願いします。

○秋田県地域振興局総務企画部 三浦委員

さきほど、資料 1 の方の、総合連携計画というのと、今のご説明いただいた、協働推進事業計画について、それぞれの位置づけというか、棲み分けというか、そこら辺のところをちょっとご説明いただければと思います。

○事務局

上位にある、といういい方は変かもしれませんが。全体を網羅している計画はこの総合連携計画であります。この中のいくつも取り組もうとしている内容が先ほどの一番後の 50 ページに書いてあるような内容でございます。50 ページに表とバーチャートで、いつに何をやっているというようなことがございますけれどもこの中の⑤の地域が協働して公共交通を守り育てる取り組みの実施といったようなメニューを考えてございまして、この中で情報提供をしますとか、利用しやすい環境を作ります、あるいはモビリティ・マネジメントを実施します、といった施策メニューを考えてございます。このような施策メニューの中で、国のほうから補助がいただけて、一緒になって国も協働して取り組んでいただけたらといったような内容について、それは国と市だけではなくて、市民も、あるいはときには企業さんも巻き込みながら、皆で一緒に実施していこうという協働という意味でございまして。その一部分を抜き出して補助をいただく計画といった

ものが協働推進事業計画ということになってございます。

○日野会長

他にご質問ご意見などありましたらよろしくお願いします。

○秋田県交通政策課 高橋委員

53 ページ、バス利用者数、1 年目 26 年度 1%アップということで目標に掲げておりますけれども。実際 54 ページのほうで取り組みがございまして、26 年度チラシを作成するということが結構大きなウェイトを占めると思うんですけれども。実際チラシについてはいつごろ作成して配布する予定にしているでしょうか。

○事務局

現在のところまだ計画ということでございますので。その発行時期につきましては確定はできませんけれども。見やすい時刻表を作成するというところでございますので、年度途中ダイヤ改正等を睨みながら、作成して配布したいというふうに考えております。

○秋田県交通政策課 高橋委員

いずれその、早めに配布しなければ、その 1 %というのは非常に厳しいと思いますので。やはりその辺りを早めに配布していただければというふうに思いますし。あと、その他の取り組みといたしまして、市の広報誌にも、バスの利用促進ということで、掲載するなり。それが石垣さんあたりは非常に利用されていますので、石垣さんあたりのコメントを載せることで。あと、地域説明会、意見交換会の中でも、バスの利用につきまして、中央交通さんのバスにつきましてもやはり含めまして、利用促進につきまして P R していただきたいなというふうに考えております。

○事務局

チラシの他に、市の広報紙、これらも利用しながら。実際地域に入って、直接説明会をして、利用促進を図りたい。また県のほうからまた出前講座をお願いするかもしれませんが。地域の人たちの利用促進をいろいろな方法、手段を使って、図っていきたいというふうに考えております。以上です。

○日野会長

他にご質問ご意見などありましたらよろしくお願いします。

○船越振興会 太田委員

56 ページの、総合案内県民マップということになっておりますけれども。他の町もそうかと思っておりますけれども。消防のほうで、汽車時間表とバス時間表を毎年消防で全戸配布しているわけなんですよ。ああいう 1 枚ものを、こういうマップを作るとなると 50 万円というそれくらいかなと思っていますけれども。そこらへん消防のほうでやっているものとかぶっているかもしれないので。そこらへんどうするのか今お聞きしたいところなのですが。

○事務局

このマップというのは今まで公共交通に関しては作成したことがありません。ただあの、他町市のマップをみますと、非常に見やすい、そしてわかりやすいような。時間もわかって、行先もしっかりわかるような。イラストみたいな感じ。そういうマップが結構出ております。割合と大きさも大きいんですけれども。そういうものを今のところはイメージしております。ただ、複数路線ありますので。そこらへん落とし込みどのようにして、作るかというのはまだ不明ですけれ



ども。実際全市がわかるような、見やすいマップが作れたらなというふうに考えています。

○船越振興会 太田委員

1枚ものではないわけですね。冊子になるんですね。

○事務局

1枚もので、大きい紙ですが、畳んで使うような。持ち運びやすいものがあって。そういうイメージ。

○船越振興会 太田委員

消防のほうもそういうふうに作っているものだからね。3月にダイヤ改正だから。あるやつを作ってしまうのではダメだから。それ以上のものを作っていかなければ。それちょっとおかしいですよ。

○日野会長

他にご質問ご意見などありましたらよろしくお願いします。

○北浦地区郷中連合会 石垣委員

北部のほうのバス時刻表にしても、国鉄の時刻表にしても。話題になるわけですが、男鹿駅に合わせるというような話もあって。うちの方は羽立駅が北のほうに行く場合利用することが多いわけです。そうすると合わないことがあるわけです。男鹿駅まで来て、男鹿駅で30分くらい待ってから乗っていくと。こういう格好だから。要望はですね。私のところは羽立駅になんとか合わせてもらえないか。こういうことです。バスのダイヤと国鉄のダイヤとなんとか合うようにお願いしたい。こういうことがよく要望されています。秋田から来て羽立駅に降りたらバスがない。(自作のポケットタイプの時刻表を取り出して)大きいこの表もあるわけですが、これは北部のカードですが、こういうものがあれば、外に出歩く人には大変便利だと思います。一覧表がありますけれども。中央交通さんから出しているものもありますが。自分が利用しないバスもいっぱい付いているものだから。めったに使わないものですから。そういう方がいいのではないかなと。その辺効果的ではないかなと思ひまして。参考までに申し上げました。

○事務局

貴重なご意見ありがとうございました。4月からのダイヤにつきましては男鹿駅ではなく羽立駅でスイッチするような形で設定はさせていただきました。しかしながら、路線バスを通学利用でお子さんがお使いになられるという時間帯もございますので、完全にすぐ乗換ができるというふうな形ではありませんけれども、まず極力時間をあわせて設定をさせていただいております。

あと時刻表ですが、大きなものもいいけど小さいものもというふうなこと、貴重なご意見ありがとうございました。こちらのほうでも、石垣委員が持っている携帯用時刻表などができないかどうかちょっと検討させていただいて、ポケットからパッととりだして、時間が確認できるというふうなものもちょっと考えていきたいというふうに思っております。

○日野会長

ちなみにそれはご自分で。見せていただいたものは。

○北浦地区郷中連合会 石垣委員

はい。

○日野会長

他に何かご意見ご質問などありましたらよろしくお願ひいたします。

○男鹿市観光協会副会長 三浦代理

すみません。観光協会の三浦です。今日はちょっと代理で出席しているので、本当に初めてなもので変な質問なのかもしれませんけれども。あの、このスクールバスと路線バスを統合するということですが、うちは北部地区も関係しますし、またGAOがありますので、やはり観光客が利用するとなると、今度市民センターを乗換場所ということになるようなんですが、イメージがちょっとわからないんです。そうすると運行するバスが小型化して、こちらの北部のほうにわかれてくるときに、もうちょっと本数が増えていくのかそれとも、現状の本数なのかそれとも、もうちょっと減らされてしまうのか、どのような感じでいくのでしょうか。

○事務局

スクール統合ということで、北浦市民センターを待合所として考えています。今の乗り継ぎの拠点は湯本駐在所です。スクールバスと路線バスが統合したと仮定しますと、学校のお子さんが乗られるバスとなればある程度の規模のものが必要になると思います。それがそれぞれの路線によって、決定されるようになりますが、配車等についてはそのそれぞれの路線を運行する事業者さんが考えて配車する形になります。

現在は朝2便、午後からの帰りの便が1便は予約なしで走っているということで考えております。フルデマンドになりましてもその路線はまず変えないような、今と同じような時刻でいきたいというふうに考えております。スクールのお子さんが乗られる車両だけは大きなものを使うことになるかと思ひます。

○日野会長

他に何かご質問ご意見などありましたらよろしくおねがひいたします。

○日野会長

それじゃ私からちょっと。お願ひしたいことがあるんですけど。

ひとつはですね。さきほどの総合連携計画と同じで、定量的なところで、総合連携計画というところで検討された結果は、こちらにも反映していただきたいと思ひます。

あとですね、取り組みのところは、基本的に皆同じ中身で5年間バアツと続いちゃうとこれで大丈夫なのかなというか。ひとつは計画という話もありますけど、もうひとつは、補助金いただく上での申請書にところもあるのかなと思うんですけども同じ物の繰り返し、時刻表のところは基本的に毎年毎年更新なわけですね。それほど中身が変わるものではないのかもしれませんが。あまりにも同じことをコピーペーストといいますか、そういう形で貼るのはどうなのかなというのがちょっと見ていて思っただけなんですけれども

特にモビリティ・マネジメントというのはTFPをやるっていうのはそうなんですけど。ちょっと今日、対象を変えてとかそういう話もあったので。そこら辺を。まだこれからそこまでガチッと決まるものではないとは思ひますけれども。ある程度こういうグループですね、学校の子供さん達ですとか、その保護者の方とかですね。ある程度目途がついていれば、必ずしもそのとおりにはやらなきゃならないという話ではないと思ひますので、こういう形で毎年変えてやっていきますよということがわかるような形の内容のほうがいいかなと思ひますがいかがでしょうか。

○事務局

運輸支局さんからの指定様式もございまして、形式上どこまで書き込んで良いものかというところが事務局側では判断できないところもございまして。

○東北運輸局秋田運輸支局 五十嵐代理

すみません。この協働推進事業計画というのが3年以上作らなければいけなくなっていて、3年の中の2年間だけ補助金が出るので、男鹿市さんで最初の1年目と2年目でやりたいもの、お金をもらってやりたいものをまず書いてみるということになっています。必然的に3年、4年、5年目は単独で実施しなければならないので、多分お金がかけられなくなるので現実的には必然的に内容は変わってくる面がありますまた取り組みのグレードも多分上がってくると、3年目、4年目、5年目というのは、今事業内容を書いても2年間経過しますので、3年目からはグレードが上がりますので、先生もおっしゃるとおり、モビリティ・マネジメントのこと関しても、細分化し、弱い所を今度攻めていくような形になりますので内容は変わらざるを得ないと思います。ですが、形式上だけとりあえず、今回は申請書的な部分がありますのでこのようになってしまっています。

○日野会長

それはこれで問題ないというよりは、むしろこういう形で運輸支局とか国交省とこれから詰めていくということですね。

○事務局

いろいろやりとりを調整しながらになります。現在のところ内定を頂いていますが、今日の会議で承認されるのが前提になっております。

○日野会長

わかりました。そういう意味では次の予算のところも、じゃああまり細かい話気にしなくてもよろしいわけですね。

○東北運輸局秋田運輸支局 五十嵐代理

1年目、2年目だけで結構です。

○日野会長

1年目、2年目と、ようするに、金額としては半分になるけども、同じこと書いていたら半分のできるわけがないじゃないかというような突っ込みはこないと考えてよろしいですね。

○東北運輸局秋田運輸支局 五十嵐代理

はい。

○日野会長

わかりました。そういう意味では、いろいろと中身については考えてはいかなきゃならないのかなとは思いますが。他に何かご質問ご意見などございますか。

ないようでしたら、男鹿市地域協働推進事業計画案につきまして、本案のとおり決定してよろしいかどうかをお諮りいたします。ご異議はございませんでしょうか。

～異議なしの声あり～

ではご異議がないようですので、男鹿市地域協働推進事業計画案につきましては、本案のとおり決定いたします。

続きまして議事の4番ということで。平成26年度男鹿市地域公共交通活性化協議会予算案につ

きまして、事務局のほうからご説明願います。

○事務局

それでは、平成 26 年度男鹿市地域公共交通活性化協議会予算案につきましてご説明いたします。座って説明いたします。

57 ページ資料 3。こちらが男鹿市地域公共交通協議会予算案、当初予算案でございます。

上の段は収入の部でございます。

1 款 1 項 1 目男鹿市の負担金は 50 万円を予定してございます。

2 款 1 項 1 目補助金は千円。これは存置科目でございまして、この後、国の事業認定になりますと、こちらの方へ予算措置ということになります。

3 款 1 項 1 目繰越金は 2 万 9 千円でございます。これは前年度の繰越金ということになってございます。

4 款 1 項 1 目諸収入、こちらは、預金利息ということで存置科目でございます。

収入の部は 53 万 1 千円を予定するものでございます。

下の段は支出の部でございます。

1 款 1 項 1 目会議費は 49 万 4 千円でございます。こちらの内訳は、報償費が 39 万円、旅費が 7 万 8 千円、需用費が 2 万 6 千円となつてございまして。公共交通活性化協議会総会、及び、幹事会等の会議経費ということで予定してございます。

1 款 2 項 1 目事務費でございしますが、こちらは 3 万 5 千円を予定するものでございます。需用費は 2 万 2 千円、役務費 1 万 3 千円でございまして。こちらの内訳は、会議で使用する資料の印刷費、ならびに郵送料等を予算措置するものでございます。

事業費 2 款 1 項 1 目、こちらは存置科目でございまして千円でございます。

3 款 1 項 1 目予備費は千円でございます。

支出総額が 53 万 1 千円という内容でございます。よろしく願いいたします。

○日野会長

ただいまご説明いただきました予算案につきまして、ご質問などございましたらどうぞよろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

～異議なしの声あり～

それではご異議がないようですので平成 26 年度男鹿市地域公共交通活性化協議会予算案につきましては、本案のとおり決定いたします。

続きまして、議事の 5 番ということで、平成 26 年度のスケジュール案につきまして、事務局からご説明お願いいたします。

○事務局

それでは平成 26 年度のスケジュール案につきましてご説明いたします。資料の 58 ページ。資料 4 と書かれているページをお願いいたします。

こちらは平成 26 年度の年間スケジュールの案でございます。4 月になりますと、単独運行バスの運行が開始ということになります。

5 月に入りますと、市内のバス路線の運行調査というものを予定してございます。こちらは毎

年させていただいておりますが、市の単独運行バスではない、民間事業者が運行しているバスの運行をチェックするものであります。5 月の中旬に入りますと、スクール路線化の話し合いということで、教育委員会を通じて、学校、PTA の皆さんと、路線化、スクールバスの路線化の具体的な話合いをしていきたいというふうに考えております。5 月の下旬はそれが順調にまとまっていった場合、地域の皆さんにもご紹介したいというふうに思っております。7 月上旬には庁内検討会を予定してございまして、7 月の下旬には幹事会、8 月の下旬に総会ということでございます。この幹事会、総会には、スクールバスの路線化の進捗状況、それと、デマンド輸送運行の実証実験等の話題をご審議いただきたいというふうに考えてございます。10 月に入りますと、地域説明会を予定してございます。スクールの路線化の話し合いは 1 回ではおそらくまとまらないであろうということもありますし、デマンドのお話も地域のお話をしないといけないということもあります。説明会を予定してございます。11 月に入りますと、上旬に庁内検討会、中旬には幹事会、下旬に総会ということでございまして、次年度以降の契約等のご審議をいただくということになっています。1 月に入りますと、委託業者の決定をいたしまして、それを受けての幹事会、総会。そして 2 月以降は実際に走る地域の説明会、ということをご予定しているものでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○日野会長

ご説明いただきましたスケジュール案に関しまして、ご質問ご意見などございましたらよろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。ご異議はございませんでしょうか。

～異議なしの声あり～

それでは平成 26 年度のスケジュール案につきましては、本案のとおり決定いたします。

あの、今ご説明いただきましたように、スクールバスの話とか、デマンドバスの話とか、新しい総合連携計画の上では次年度非常に大事な年だと思いますので、委員の皆様にもご協力をよろしくお願いいたします。

それでは次第の 4 番の報告事項ということで、平成 26 年度男鹿市単独運行バスの契約内容についてということで事務局からご説明をお願いします。

○事務局

それでは 59 ページ、平成 26 年度男鹿市単独運行バスの契約内容につきまして、ご説明いたします。資料 59 ページ、資料 5 と書いているペーパーをお願いいたします。

こちらは平成 26 年度 4 月からの単独運行バスの契約内容ということでございます。男鹿中線につきましては、浜間口下丁から羽立駅前の路線でございますが、こちらは秋田観光バス株式会社が 367 万 2 千円で契約をしています。

2 番目の五里合線は中石から脇本駅前までの範囲でございますが、秋田中央トランスポート株式会社が 1,749 万 6 千円で落札をしてございます。

3 路線目は潟西北部線でございますが、下五明光から若美総合支所前まででございまして、秋田観光バス株式会社が 1,080 万円で落札決定してございます。

4 番目は入道崎線でございますが、入道崎から湯本駐在所前まででございまして、株式会社船川タクシーが 712 万 8 千円で決定をしています。

5 番目は戸賀加茂線であります。加茂から湯本駐在所前まで。秋田中央トランスポート株式会社が 1,231 万 2 千円で決定してございます。

6 路線目は安全寺線であります。安全寺上丁から北浦市民センター前までを、秋田観光バス株式会社が 972 万円で契約をしています。

以上で契約内容の報告を終わります。よろしくお願いいたします。

○日野会長

ただいま事務局からご報告をいただきましたが、何かご質問ご意見などございますでしょうか。  
よろしいですか。

ないようですので、以上をもちまして、本日の全日程を終了いたします。どうもありがとうございます。

○事務局

報告とかは何もございませんので。

これで本日の男鹿市地域公共交通活性化協議会総会を終了いたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後 4 時 07 分閉会

会議の次第を記載し、これを相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成 26 年 4 月 28 日

会 長      日 野   智

委 員      鎌 田   栄 光

委 員      三 浦   秋 広